

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	0670401231
法人名	有限会社 HYOコーポレーション
事業所名	グループホーム 東陽館
訪問調査日	平成 20年 11月 11日
評価確定日	平成 20年 12月 3日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0670401231
法人名	有限会社 HYOコーポレーション
事業所名	グループホーム 東陽館
所在地 (電話番号)	山形県米沢市城北1丁目2番5号 (電話) 0238-37-8181

評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149番地		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.6人(1ユニット)

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨・準耐火 造り	
	2階建ての	階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000~1,400円(/日)	その他の経費(月額)	1,900円(/日)	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月20日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	65歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三友堂病院、米沢市立病院、島津医院、中條歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一建物内に、小規模多機能ホーム、デイサービスセンター、カルチャーセンター、託児所が併設されており、それぞれの交流がなされ、利用者にとって日々の生活の中に変化がもたらされ、楽しく過ごせる環境になっている。特に幼児との交流は利用者のこの上ない喜びに繋がっている。街の中にあるグループホームとして地域住民との交流、四季の祭りでの交流、地域の一時避難場所としての位置づけ等地域との融和も進んでおり、地域と密着した事業所となっている。建物は大正時代からある料亭を改築したものであり、純和風建築であり、利用者にとって馴染の落ち着ける環境となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策に関して夜間訓練は天候の都合で、昨年度実施されなかったが、本年度は取り組まれており、それ以外の訓練ともあわせ、災害訓練については積極的に取り組まれている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に記入された自己評価表を配布、意見を貰いながら、介護主任、管理者、社長が最終的にまとめている。職員には普段気がつかない事業所の取り組みについても、気付かせる機会となっている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成20年4月より、小規模多機能居宅介護事業所と合同で実施している。事業所独自の利用者の家族アンケートを実施しており、結果をサービスの質の向上に役立てている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、外部での意見窓口の設置、運営推進会議での意見、独自の家族アンケートの実施等意見をもらえる仕組みを工夫し、運営に反映させている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とのつきあいは、東陽館全体として取り組まれており、町内会への参加、近隣地域への広報誌の配布、ボランティアの受け入れ、「四季の祭り」へのお誘い、早朝の川掃除、冬の雪かき等、地域との交流は活発に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年3月の開設時に、職員と管理者が作り上げた「この町とともに生きる、この人たちとともに暮らす、仲よく笑って、遊んで」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもとに、基本方針を職員と管理者で話し合い作成している。理念は東陽館全体の朝礼で朗読し、その後方針を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつきあいは、東陽館全体として取り組まれており、町内会への参加、近隣地域への広報誌の配布、ボランティアの受け入れ、「四季の祭り」へのお誘い、早朝の川掃除、冬の雪かき等、地域との交流は活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に記入された自己評価表を配布、意見を貰いながら、副主任、管理者、社長が最終的にまとめている。職員には普段気づかない事業所の取り組みについても、気付かせる機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年4月より、小規模多機能居宅介護事業所と合同で実施している。事業所独自の利用者の家族アンケートを実施しており、結果をサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の受け入れ、介護保険についての解釈、不明事項、確認事項等常にサービス向上のためコミュニケーションを図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当職員が「東陽館だより」に利用者の生活、健康状態、行事等を記入し送付している。小遣いは各自の小遣い帳を記入し確認いただいている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置、外部での意見窓口の設置、運営推進会議での意見、独自の家族アンケートの実施等意見をもらえる仕組みを工夫し、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>一つの建物の中に他の事業所が設置されており、その中での異動が主であり、普段から馴染みの関係が出来ており、異動に関してはさほど支障はない。又、異動が発生する場合は10日から30日程の期間を持って行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>初任者研修、中堅研修、副主任以上の職員に対する研修等クラス別に内部研修が実施されている。外部研修にも研修費の一部を事業所が負担して参加させている。資格取得も積極的に勧め、職員も意欲的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区(置賜)の26事業所を対象とした勉強会を東陽館で実施し、情報交換、交流を行っている。交換実習にも参加している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	干し柿作り、笹巻き作り、清掃、調理等利用者と職員が一緒になって取り組んでおり、利用者から職員が教えてもらう場面が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向をアセスメントにおいて汲み取ろうと努力はされているが、まだADL面に偏りすぎており、利用者の思いや意向に関しての把握が不足している。	○	利用者に対するケアの質の向上のためにも、更に利用者の意向や、思いの把握に出来るような取り組みが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族等の希望や意見を聞き、又QOL会議で、話し合い、結果を計画に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のQOL会議にてケアプランの見直しをしている。利用者の状態の変化に伴い、現状に即したプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	精神科、心療内科、在宅酸素設置者は従来からのか かりつけ医に受診している。その他の利用者は協力医 が主であり、協力医である島津医院からは月2回の往 診で薬を処方してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した時の指針は作成されて、職員にも周知され ている。家族には重度化したときに指針をもとに説明さ れている。今後は入居時に説明もされることを検討。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	月1回のQOL会議及び部門会議で十分話し合われて いる、又、朝礼で社長より理念と接遇の話がされてい る。普段の業務の中でも職員に対しては、気づいたとき に指導が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴時間、外出はその人のペースに合わ せるようにしている。土、日はユニット独自の献立なので 買い物に職員と利用者が同行し行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、野菜の下ごしらえ、果物の皮むき、又盛り付け等は、職員と協働で行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の、日中の入浴を実施している。希望時の入浴も実施できるようにしている。又、木曜日は近くの旅館の温泉にも行っていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	託児所が併設されており、エレクトーンで幼児と交流したり、趣味活動(レクリエーション、カルチャー)に参加している。又、ドライブやお祭りに参加し日々の生活を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回買い物に一人ずつ参加したり、バスハイクに出かけたり、以前に暮らしていた家を見に出かけたりと、普段の散歩とともに戸外に出るよう工夫がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	午後11時までは面会人もあるので、それ以降朝の6時迄は玄関は防犯の為施錠されている。それ以外は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	東陽館全体での災害対策をとっており、年2回(春・秋)に避難訓練を実施している。警備会社の協力のもと消火器等の使い方の訓練も行っている。町内の一時避難所となっているので、町内会や警察署にも協力してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	土日以外の食事は真空調理システムによる調理を実施、個別に刻み食、特別食と対応している。土日の食事はユニットごとの献立なので、栄養や水分には配慮している。管理栄養士が配置されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	格子戸、障子戸を使っているので馴染の空間であり、書画や季節の草花を飾って、居心地良く感じられるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子戸、畳敷きであり、かつての生活で使用していたものも持ち込まれており、自分らしい部屋作りがなされ、居心地良く過ごせる工夫がされている。		